

# 北海道文化賞

はら だ やす こ  
原 田 康 子

長年にわたり、小説家として北海道の女性を中心とした北の人間像を鮮やかに描き、今日まで日本の文学界に絶えず清新な話題を提供し、本道を代表する作家として活躍を続けている。また北海道新聞文学賞の選考委員を賞の創立以来務め、多くの新進作家を見だし、さらに「北海道文学館」の活動の礎を築くなど、本道の文学の普及と発展に大きく貢献している。

- 昭和3年 釧路市に移住
- 昭和24年 東北海道新聞記者
- 〃 「北方文芸」(同人誌)に「冬の雨」を発表
- 昭和29年 「サビタの記憶」が「新潮」同人雑誌賞の最終候補となる
- 昭和30年 「北海文学」(同人誌)に「挽歌」を連載
- 昭和32年 女流文学者賞「挽歌」(ばんか)
- 昭和33年 「挽歌」が映画化される
- 昭和34年 札幌市に移住
- 昭和42年 北海道新聞文学賞選考委員
- 昭和43年 北海道文学館理事
- 平成10年 (財)北海道文学館顧問
- 平成11年 女流文学賞「蠟涙」(ろうるい)
- 平成15年 吉川英治文学賞「海霧」(うみぎり)